

科目名 (英)	人体の構造と機能Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	加藤徳子
	(Structural Function of Human BodyⅡ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 水曜1・2限
学科・コース	視能訓練科						
教員の略歴	加藤徳子:東北大学大学院農学研究科卒、東北文化学園大専門学校非常勤講師						
授業の学習内容	【加藤徳子】 人体の構造と機能を教科書の図、写真、表などを用いて、具体的に説明できる。 小設問を用いて、知識の確認ができる。						
到達目標	【加藤徳子】 生理学の学習により、基礎的な知識レベルを上昇させ、専門科目の説明ができる。						
評価方法と基準	【加藤徳子】 各科ごとの小テストと期末テストの結果を合わせて総合評価する。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	4月7日	講義	血液の性状、はたらき、血液型について学び、説明することができる。		小テスト
2	4月21日	講義	心臓、血管の役割、血圧について学び、説明することができる。		同上
3	4月28日	講義	呼吸のしくみ、ガス交換について学び、説明することができる。		同上
4	5月12日	講義	消化の仕組み、消化酵素について学び、説明することができる。		小テスト
5	5月19日	講義	肝臓の役割、栄養、代謝について学び、説明することができる。		同上
6	5月26日	講義	尿の生成と体内の調節について学び、説明することができる。		小テスト
7	5月26日	講義	ホルモンの作用・分泌機序について学び、説明することができる。		同上
		試験			
		解説	試験内容の解説		
準備学習 時間外学習			プリント、教科書、参考書を予習・復習する。		
【使用教科書・教材・参考書】 □					
【加藤徳子】「人体の構造と機能」医学書院 参考書:「新しい解剖生理学」南江堂					

科目名 (英)	人体の構造と機能Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	溝口二郎
	(Structural Function of Human Body Ⅱ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 月曜2限
学科・コース	視能訓練科						
教員の略歴	山形大学医学部解剖学教室を経て東北大学大学院医学系研究科准教授を歴任 医学博士						
授業の学習内容	解剖生理学のみならず細胞・組織学、人体発生学を取り入れて、総合的に形態、機能について理解できる。						
到達目標	人体の構造・機能について、解剖生理学を中心に学習し、理解できる。						
評価方法と基準	定期試験100%。試験問題の6割以上を正しく解答できること。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/19	講義	中枢神経系: 脊髄、脳幹、中脳、間脳を理解する	プリントとノートによる予習と復習
2	5/10	講義	小脳、大脳、大脳皮質機能局在、脳室を理解する	同上
3	5/10	講義	脳脊髄液、脳血管、上・下行性伝導路を理解する	同上
4	5/17	講義	末梢神経系: 脳神経Ⅰ～Ⅻの機能を理解する	同上
5	5/17	講義	脊髄神経構造と各部位神経・神経叢を理解する	同上
6	5/24	講義	自律神経系: 交感神経・副交感神経を理解する	同上
7	5/31	講義	聴覚器、平衡感覚器、味覚器、嗅覚器を理解する	同上
8	6/7	試験	定期試験	
9	6/14	解答・講義	骨格系: 骨の発生と成長、人体骨格を理解する	プリントとノートによる予習と復習
準備学習 時間外学習		プリント、教科書、参考書を予習・復習する。		
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				
「人体解剖学」構造と機能 ミクロからマクロまで F.Hマティーニ 西村書店 「解剖学—人体の構造と機能—」渡辺 皓 サイオ出版 「入門人体解剖学」藤田恒夫 南江堂				

科目名 (英)	視覚生理学Ⅱ (Visual Physiology Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	成田周平
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時限	後期 水曜1・2 限
教員の略歴	2016年視能訓練士取得後 眼科クリニックにて勤務。						
授業の学習内容	視覚の各要素について改めて説明できる。 各要素に関する用語、法則、現象等を理解できる。 過去国家試験問題から視覚生理学に関する問題を解説できる。						
到達目標	①視力、視野、色覚、光覚の各要素に関する用語を説明できる。 ②電気生理検査の検査ごとの原理、特徴を理解できる。 ③視覚生理学の範囲の過去国家試験問題を解くことができる。						
評価方法と基準	定期試験(筆記)100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	11月17日	講義	視力の種類、視力に影響する因子について説明できる。	ノートの復習
2	11月17日	講義	視野異常、視野に影響する因子について説明できる。	同上
3	11月24日	講義	色の特性、色覚異常について説明できる。	同上
4	11月24日	講義	光覚に関係する反応について説明できる。	同上
5	12月1日	講義	電気生理学検査の原理について説明できる。	同上
6	12月1日	講義	過去国家試験問題演習・解説できる。	同上
7	12月8日	講義	過去国家試験問題演習・解説できる。	同上
8	12月8日	試験	定期試験	
9	12月15日	講義	試験解説	
			ノートの復習	
【使用教科書・教材・参考書】				
視能学第2版				

科目名 (英)	生理光学Ⅱ (Optic Physiology Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	成田周平
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜2限
教員の略歴	2016年視能訓練士取得後 眼科クリニックにて勤務。						
授業の学習内容	視能訓練士国家試験において、生理光学分野の問題や生理光学を理解していないと正答できない問題は頻出しているため、眼光学について改めて理解し、国家試験に出題される問題を解けるように解説できる。過去国家試験問題等を実際に解き、生理光学分野の得点力を上げることができる。						
到達目標	①視力・視角・検査距離・網膜像の大きさの計算ができる。 ②屈折矯正・検影法に関する問題を解くことができる。 ③遠点・近点・調節力に関する問題を解くことができる。 ④プリズム度数・輻輳角・AC/A比の計算ができる。 ⑤その他、国家試験出題範囲の生理光学分野の問題を解くことができる。						
評価方法と基準	定期試験(筆記)100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5月11日	講義	光、レンズに関する公式を使った計算	生理光学ドリルⅡの問題を解く
2	5月25日	講義	視力・視角・検査距離の計算	同上
3	6月8日	講義	遠点・近点・調節力の計算	同上
4	6月22日	講義	プリズム、輻輳角、AC/A比の計算	同上
5	6月22日	講義	頂点間距離を考慮した計算	同上
6	7月6日	講義	過去国家試験問題演習・解説	同上
7	7月6日	講義	過去国家試験問題演習・解説	同上
8	7月20日	試験	定期試験	
9	8月3日	講義	定期試験解説	
準備学習 時間外学習			生理光学ドリルⅡの復習	
【使用教科書・教材・参考書】				
生理光学ドリルⅡ				

科目名 (英)	眼科薬理学Ⅱ (PharmacologyⅡ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	江戸清人
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期 曜日・時限 火曜・3限
教員の略歴	薬学博士(S49取得) 帝京大学薬学部教授(H18-28)						
授業の学習内容	医療の現場において視能訓練士は医薬品や、試薬を使用する機会も多い。この科目では臨床で用いられる医薬品一般について概略的に学ぶことを目的とする。さらに眼科領域で使用される医薬品について説明できる。						
到達目標	①点眼薬を中心とする眼科領域で使用される医薬品が理解でき、説明できる。 ②コメディカルの理解を必要とする医薬品100種類の作用機序、適応、副作用について説明できる。						
評価方法と基準	期末の定期試験90点、今回に限り眼科薬理学Ⅰの薬理学実習のレポートを10点満点で評価する。その他出席状況、受講態度も評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/20	講義	前期のまとめ、今後の予定、循環器系疾患の薬、呼吸器系疾患の薬について説明できる。	教科書P215～255、P299～315を熟読
2	4/27	講義・演習	消化器系疾患の薬について説明できる。	教科書P317～343を熟読
3	5/11	講義・演習	代謝系疾患の薬、血液・造血器系疾患の薬について説明できる。	教科書P345～365、P257～276を熟読
4	5/11	講義・演習	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬について説明できる。	教科書P179～199を熟読
5	5/18	講義・演習	薬剤の副作用/医薬品における健康被害について説明できる。	プリント配布
6	5/18	講義・演習	眼科で使用する薬の概説および視能訓練士国家試験過去問の演習と解説(その1)/演習	プリント配布
7	5/25	講義・演習	眼科で使用する薬の概説および視能訓練士国家試験過去問の演習と解説(その2)/演習	プリント配布
		試験		
8	6/8	試験解説	定期試験解説・国家試験眼科薬理学試験内容まとめ	プリント配布

準備学習 時間外学習

【使用教科書・教材・参考書】教科書: 櫻田 司編集、「コンパス薬理学 改訂第2版」、南江堂、2017。
参考書: 庄子 純他編集著、「点眼薬 クリニカルブック第2版」、金原出版株式会社、2015。
演習: 安原一・小口勝司編、「わかりやすい薬理学第3版 生理ノートポイントと確認問題」、ノーベルヒロカワ、2017。
鈴木正彦著、「新改訂薬理学第2版」、株式会社サイオ出版、2014。

科目名 (英)	視能矯正学 (Orthoptics)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	大弓幸子
	学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	1980年～帝京大学病院にて視能訓練士として勤務、1982年～松田眼科クリニックにて視能訓練士として勤務、2017年～岩手県立盛岡視覚支援学校勤務を経て東北文化学園大学勤務						
授業の学習内容	本講義は、狭義の視能矯正学、主に弱視や斜視を対象に、検査や訓練をするための基礎知識を説明できる。斜視や弱視の治療は主に「視覚の感受性期間」内に行う、つまり小児が対象である。小さい子に対して「両眼視機能」を探りながら検査や訓練をするのは大変だが、視能矯正は視能訓練士の原点ともいえるやりがいがある分野である。小児の視機能(視力、調節、調節、両眼視機能などは発達過程にある。視能を矯正するとは、正常な発達を促すための視環境の管理を行った上で、適切なタイミングで必要な訓練を行うことになる。そのためには、正常な視能の発達過程、条件を十分に理解して、幼い子から得られる限られた情報を十分に活用して治療方針を立てる「考える力」が必要になる。講義では、両眼視機能といった目に見えない機能をイメージしやすいように、図を活用し、考えを進めていけるように流れを組み立てて構成していく。						
到達目標	① 視力や他の視機能がいつどのように発達していくのか、そして幼年型視覚の特徴はなにか理解できる。②弱視の原因と病態を理解でき、臨床所見から弱視の分類ができる。③斜視についての定義、診断のために必要な情報はなにか考えることができる。④正常両眼視とはどのようなものか理解でき、両眼視機能異常や不調について所見や訴えから想定することができる。⑤両眼視機能検査の目的がわかり、適切に選択することができる⑥両眼視機能検査の結果から状態を評価することができる⑦視能矯正訓練の目的と理論を理解できる						
評価方法と基準	1) 定期試験80% 2) 小テスト5% 3) 出席数 15%						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1	4月23日	双方向型オンライン	視覚の発達と幼年型視覚：・視覚の感受性期間について・正常な視覚(視力、調節、屈折、眼球運動、両眼視機能)はどのように発達していくのか・幼年型視覚の特徴	事前：視能学に目を通す	授業後：資料を再読		
2	4月23日	双方向型オンライン	・視力の発達に必要な条件・感受性期間と弱視訓練の基本ルール	事前：資料に目を通す	授業後：資料を再読ノートをまとめる		
3	4月30日	双方向型オンライン	弱視総論：医学的弱視の定義・弱視の定義の変遷・弱視の原因・弱視の分類 各論：形態覚遮断弱視、原因、病態、診断、検査、治療	事前：資料に目を通す	授業後：資料を再読ノートをまとめる		
4	4月30日	双方向型オンライン	弱視各論：屈折異常弱視・原因、病態、診断、検査、治療 同視弱視・原因、病態、診断、検査、治療	事前：資料に目を通す	授業後：資料を再読ノートをまとめる	不	
5	5月7日	双方向型オンライン	弱視各論：斜視弱視の原因、病態、診断、検査、治療	事前：資料に目を通す	授業後：資料を再読ノートをまとめる		
6	5月7日	双方向型オンライン	弱視各論：微小斜視弱視・原因、病態、診断、検査、治療	事前：資料に目を通す	授業後：資料を再読ノートをまとめる		
7	5月14日	双方向型オンライン	両眼視の基礎：なぜ眼が二つあるのか・メリットとリスク・両眼視野・視方向・自己中心局在	事前：資料に目を通す	授業後：資料を再読ノートをまとめる		
8	5月14日	双方向型オンライン	両眼視の基礎：ホロプター・バナムの領域・同時視・感覚性融像・運動性融像・立体視	事前：資料に目を通す	授業後：資料を再読ノートをまとめる		
9	5月21日	双方向型オンライン	斜視総論：定義・病理・分類・診断のために必要な情報	事前：資料に目を通す	授業後：資料を再読ノートをまとめる		
10	5月21日	双方向型オンライン	幼年型視覚期に生じる斜視の異常：抑制・網膜対応異常	事前：資料に目を通す	授業後：資料を再読ノートをまとめる		
11	6月4日	双方向型オンライン	斜視の検査と評価：中心窩とみちづれ領の検査・中心窩と中心窩の検査	事前：資料に目を通す	授業後：資料を再読ノートをまとめる		
12	6月4日	双方向型オンライン	大型弱視鏡による検査の実際：同時視・融像・立体視	事前：資料に目を通す	授業後：資料を再読ノートをまとめる		
13	6月11日	双方向型オンライン	視能矯正訓練の実際：外斜視	事前：資料に目を通す	授業後：資料を再読ノートをまとめる		
14	6月11日	双方向型オンライン	視能矯正訓練の実際：内斜視・眼筋麻痺	事前：資料に目を通す	授業後：資料を再読ノートをまとめる		
15		試験					
16	6月25日	双方向型オンライン	試験解説				
準備学習 時間外学習				講義資料を前の講義時間に配布する為、事前に読んでおく必要あり			
【使用教科書・教材・参考書】 □							

科目名 (英)	卒業研究 (Orthoptics)	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	菅原みずえ
	学科・コース 視能訓練科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	45 (3)	開講区分	通年
教員の略歴	視能訓練士として大学病院に勤務経験あり 眼科一般検査全般及びロービジョンケアに従事						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習に参加するために必要な身構え・気構え・心構えを身につけるとともに、臨地実習に必要な書類作成ができる。 ・専門知識・技術の習得の課程で、疑問に思ったことや興味をもったテーマを、問題発見から解決まで研究できる。 ・臨地実習用ノート、国試対策ノートの作成ができる。 						
到達目標	学習の集大成として、視能訓練の理解を深めることができる。 国家試験に合格しうる知識を定着できる。						
評価方法と基準	定期試験(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態・時間帯	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月21日	演習	臨地実習用ノート作成	臨地実習用ノート作成
2				
3	4月28日	演習	臨地実習用ノート作成	臨地実習用ノート作成
4				
5	5月12日	講義	臨地実習オリエンテーション	臨地実習用ノート作成
6				
7	5月19日	演習	臨地実習必要書類作成	臨地実習用ノート作成
8				
9	5月26日	講義	臨地実習最終指導	臨地実習用ノート作成
10	8月16日	演習	臨地実習Ⅰ期振り返り	臨地実習Ⅰ期アンケート
11				
12	8月16日	講義	国家試験オリエンテーション	国試対策ノート作成
13				
14	10月25日	演習	臨地実習Ⅱ期振り返り	臨地実習Ⅱ期アンケート
15				
16	10月26日	演習	症例報告まとめ	国試対策ノート作成

17	10月26日	演習	症例報告まとめ	国試対策ノート作成
18	10月27日	演習	症例報告まとめ	国試対策ノート作成
19				
20	10月28日	演習	症例報告まとめ	国試対策ノート作成
21				
22	11月1日	演習	症例報告会	国試対策ノート作成
23				
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 視能学第2版、現代の眼科学、眼科検査法ハンドブック、視能矯正学第3版				

科目名 (英)	視能検査学実習Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	吉田菜央
	(Practical training in Orthoptic ExaminationⅡ)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 木曜2・3 限
学科・コース	視能訓練科						
教員の略歴	眼科医院勤務を経て仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 視能訓練士						
授業の学習内容	相互実習を行い、正しい検査手技によって正確な検査結果を出すことができる。 ケースワークをもとに、各疾患に対する検査の組み立て方を学び、臨床に必要な考察力を身につけることができる。						
到達目標	問診から考え得る疾患を列挙できる。 患者様の理解度に応じた検査説明ができる。 正しい操作で検査ができ、正確な結果を出すことができる。 正しい検査結果の評価ができる。						
評価方法と基準	定期試験 筆記(試験60%、OSCE20%、出席・チェック点20%) 実技(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月5日	実習	オリエンテーション 視力検査・視野検査等の学生間相互実習にて手順・操作方法・原理の確認を行う。	1.2年次授業資料を確認する。
2				
3	4月12日	実習	視力検査・視野検査等の学生間相互実習にて手順・操作方法・原理の確認を行う。	同上
4				
5	4月19日	実習	視力検査・視野検査等の学生間相互実習にて手順・操作方法・原理の確認を行う。	同上
6				
7	4月26日	実習	視力検査・視野検査等の学生間相互実習にて手順・操作方法・原理の確認を行う。	同上
8				
9	5月10日	実習	OSCE 臨床現場を想定し、視力検査の流れを試験形式で確認する。	同上
10				
11	5月17日	実習	OSCE評価のフィードバックを行なう。 改善点を確認したうえで相互実習を行う。	同上
12				
13	5月24日	実習	総括	同上
14				
15	6月7日	講義	試験解説	同上
準備学習 時間外学習			検査の原理、説明方法を予習しておくこと。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
視能学 第2版・現代の眼科学・眼科検査法ハンドブック・1.2年次講義資料・レポート				

科目名 (英)	神経眼科学Ⅱ (Neuron OphthalmologyⅡ)	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	東北大学病院 医師
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練科						
教員の略歴	東北大学病院眼科より眼科専門医が講師として来校						
授業の学習内容	眼球運動障害について説明できる。 眼振と眼振様運動について説明できる。 神経解剖学について説明できる。 瞳孔異常について説明できる。 眼瞼と顔面表情筋の障害について説明できる。 高次視機能障害について説明できる。 眼疾患と全身疾患について説明できる。 視神経疾患について説明できる。 乳頭の異常について説明できる。 視交叉、後頭葉の病変について説明できる。 眼窩疾患と海面静脈洞病変について説明できる。 偏頭痛とその他頭痛について説明できる。						
到達目標	国家試験対策のために重要な皮膚から末梢病変を学習し、鑑別診断から治療までを系統立てて説明できる。						
評価方法と基準	1 定期試験 筆記 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月25日	講義	眼球運動障害について学ぶ。 眼振と眼振様運動について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	
2	10月26日	講義	神経解剖学について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	
3	10月27日	講義	瞳孔異常について学ぶ。 眼瞼と顔面表情筋の障害について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	
4	10月28日	講義	高次視機能障害について学ぶ。 眼疾患と全身疾患について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	
5	10月29日	講義	視神経疾患について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	
6	11月1日	講義	乳頭の異常について学ぶ。 視交叉、後頭葉の病変について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	
7	11月2日	講義	眼窩疾患と海面静脈洞病変について学ぶ。 偏頭痛とその他頭痛について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	
	11月4日	試験		
8	11月8日	解説		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 視能学 第2版・神経眼科学 臨床のために				

科目名 (英)	眼疾病学Ⅱ (OphthalmologyⅡ)		必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	東北大学病院 医師
	学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
教員の略歴	東北大学病院眼科より眼科専門医が講師として来校							
授業の学習内容	<p>眼瞼、涙器、網膜の構造について説明できる。 眼瞼、結膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法について説明できる。 角膜・強膜の構造。角膜、胸膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法について説明できる。 視覚器の解剖、視機能の評価について説明できる。 網膜硝子体疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法を説明できる。 水晶体疾患について、白内障を原因別に分類し、病態・臨床所見・治療法を説明できる。 緑内障について説明できる。 小児眼科、弱視、斜視について説明できる。 ぶどう膜の解剖・生理について説明できる。ぶどう膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療法について説明できる。 網膜硝子体の構造と生理について説明できる。網膜硝子体検査の方法について説明できる。 外傷・全身疾患と眼の関係性を説明できる。</p>							
到達目標	国家試験対策のために重要な眼疾患の病態、検査結果、鑑別診断、治療法を説明できる。							
評価方法と基準	1 定期試験 筆記 100%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月25日	講義	眼瞼、結膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法について学ぶ。 角膜・強膜の構造。角膜、胸膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	授業内容をノートにまとめる
2	10月26日	講義	視覚器の解剖、視機能の評価について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	同上
3	10月27日	講義	網膜硝子体疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法を学ぶ。 水晶体疾患について、白内障を原因別に分類し、病態・臨床所見・治療法を学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	同上
4	10月28日	講義	水晶体疾患について、白内障を原因別に分類し、病態・臨床所見・治療法を学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	同上
5	10月29日	講義	緑内障について学ぶ。 小児眼科、弱視、斜視について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	同上
6	11月1日	講義	ぶどう膜の解剖・生理について学ぶ。ぶどう膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療法について学ぶ。 網膜硝子体の構造と生理について学ぶ。網膜硝子体検査の方法について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	同上
7	11月2日	講義	外傷・全身疾患と眼の関係性を学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	同上
	11月4日	試験		
8	11月8日	試験解説		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 視能学 第2版・現代の眼科学 改訂12版				

科目名 (英)	視能障害学 (Practical Disorders)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	小林茂樹
	学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	【小林茂樹先生】 日本医科大学付属病院医員助手(眼科)(3年)、下館市民病院 眼科医長(3年)、医療法人 明信会 今泉眼科病院(2年)、 現 医療法人社団 小林眼科医院						
授業の学習内容	【小林茂樹先生】 各疾患の症例写真を多く用いたスライドを提示し、臨床上的話しを踏まえながら授業を進め、各疾患の説明できる。						
到達目標	【小林茂樹先生】 症例写真を見て、臨床所見を答えることができる。						
評価方法と基準	【小林茂樹先生】 定期試験(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5月15日	講義	色覚 色覚検査の重要性を理解できる。	事前:視能学を読む 授業後:資料を再読
2	5月15日	講義	OCT、緑内障 OCT画像から緑内障所見を述べることができ	事前:視能学を読む 授業後:資料を再読
3	5月22日	講義	前視野緑内障、点眼薬総論 原因・病態・臨床所見・治療方法を理解でき	事前:視能学を読む 授業後:資料を再読
4	5月22日	講義	前眼部疾患 原因・病態・臨床所見・治療方法を理解でき	事前:視能学を読む 授業後:資料を再読
5	5月29日	講義	白内障 原因・病態・臨床所見・治療方法を理解でき	事前:視能学を読む 授業後:資料を再読
6	5月29日	講義	加齢黄斑変性症、網膜疾患 原因・病態・臨床所見・治療方法を理解でき	事前:視能学を読む 授業後:資料を再読
7	5月29日	講義	ぶどう膜疾患 原因・病態・臨床所見・治療方法を理解でき	事前:視能学を読む 授業後:資料を再読
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				

15				
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				
【小林茂樹先生】 眼科疾患ビジュアルブック、現代の眼科学				

科目名 (英)	視能障害学	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	大弓幸子
	(Practical Disorders)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 木曜
学科・コース	視能訓練科						
教員の略歴	1980年～帝京大学病院にて視能訓練士として勤務、1982年～松田眼科クリニックにて視能訓練士として勤務、2017年～岩手県立盛岡視覚支援学校勤務を経て東北文化学園大学勤務						
授業の学習内容	【大弓幸子先生】 本講義で扱う視能障害学は、対象を絞り、成人型視覚において生じた眼位・眼球運動障害について説明できる。 ①眼球運動システムの基本を理解した上で、障害発生部位ごとの病態と鑑別をすることができる。② 診断を得るために必要な眼位検査・眼球運動検査を理解し、鑑別診断に必要なポイントを説明できる。③治療目標は治癒だが発達期を過ぎた成人の場合、完全治癒やどのむき眼位でも正位を得ることが難しい場合が多い。そのため、QOVの向上を目指すという視点からの視能訓練や光学的治療、薬物治療、手術療法についても説明できる。						
到達目標	① 眼球運動の種類とその経路を理解でき、障害部位を想定できる②眼位、眼球運動の評価ができる③外眼筋の解剖を理解し、眼球運動の特性を理解できる④眼球運動と眼球運動の法則の関連を理解できる⑤眼球運動障害の特徴から鑑別すべき疾患と必要な検査を想定できる⑥眼球運動障害の検査を選択し、その結果を評価できる⑦眼球運動障害に対する治療方針決定までの流れと治療選択の理由、治療方法を理解できる						
評価方法と基準	【大弓幸子先生】 1) 定期試験80% 2) 小テスト5% 3) 出席数 15%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1	4月22日	双方向型オンライン	眼球運動の種類、障害部位別分類	事前: 視能学を読む 授業後: 資料を再読	
2	5月6日	双方向型オンライン	眼位・眼球運動障害評価の基本	事前: 視能学を読む 授業後: 資料を再読	
3	5月13日	双方向型オンライン	眼球運動と外眼筋の解剖生理	事前: 視能学を読む 授業後: 資料を再読	
4	5月20日	双方向型オンライン	外眼筋と眼球運動の関連と法則	事前: 視能学を読む 授業後: 資料を再読	
5	5月27日	双方向型オンライン	眼位・眼球運動障害の診断	事前: 視能学を読む 授業後: 資料を再読	
6	6月3日	双方向型オンライン	眼位・眼球運動障害の検査と鑑別	事前: 視能学を読む 授業後: 資料を再読	
7	6月7日	双方向型オンライン	眼位・眼球運動障害の治療	事前: 視能学を読む 授業後: 資料を再読	
8	6月18日	試験			
9	6月25日	双方向型オンライン	試験解説		
10					
12					
13					
14					
15					
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 □					
【大弓幸子先生】 視能学第2版、講義資料(配布)、パワーポイント使用					

科目名 (英)	視能訓練学実習Ⅲ (Practical Trainig in Orthoptics Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	吉田菜央
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 木曜3・4 限
教員の略歴	眼科医院勤務を経て仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 視能訓練士						
授業の学習内容	眼位、眼球運動、両眼視機能などの知識から各種診断的検査ができる。 眼位検査手技を習得し、臨地実習における実践の場で活用できる。						
到達目標	患者が理解しやすい説明・声かけができる。 眼位検査におけるさまざまな所見を説明できる。 患者所見から必要な検査選択できる。 基本的眼位を正しく定性、定量できる。						
評価方法及基準	定期試験 筆記(試験60%、レポート20%、出席・チェック点20%) 実技(100%) ※実技試験にて不合格の場合、筆記試験の得点によらず当科目は不合格とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月8日	実習	眼位検査 水平・上下斜視の眼位検査ができる。	2年次作成レポートを確認する。
2				
3	4月15日	実習	検影法 ①復習/ 検影法の基本原理を思い出す。 ②球面屈折異常を述べることができる。	同上
4				
5	4月22日	実習	検影法 ③乱視の特徴を述べることができる。 ④球面レンズ法を実践できる。	同上
6				
7	5月6日	実習	検影法 ①プラス円柱レンズ法を実践できる。 ②マイナス円柱レンズ法を実践できる。	同上
8				
9	5月13日	実習	検影法 ③他の検査との連携を理解する。 ④臨床における検影法を理解する。	同上
10				
11	5月20日	実習	眼位検査 水平・上下混合斜視の眼位検査ができる。	同上
12				
13	5月27日	実習	眼位検査(プレ試験) 試験同様の形式で各種斜視に対する眼位検査が実践できる。	被検者が検者を評価。客観的評価を検者にフィードバックする。
14				
15	6月10日	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
視能学・眼科検査法ハンドブック・2年次授業資料及び作成レポート				

科目名 (英)	臨地実習 I (Clinical Practice I)		必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	高瀬志保子
	学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義・演習・実 習	総時間 (単位)	315 (7)	開講区分	前期
教員の略歴	眼科医院勤務を経て仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 視能訓練士							
授業の学習内 容	①眼科検査機器の使用法を学び操作できる。 ②眼疾患についての理解を深めることができる。 ③患者様に対して検査の説明ができる。 ④眼疾患と検査の関連を理解できる。							
到達目標	医療現場において、医療倫理に基づく基本的なマナーを実践し、視能訓練士として必要な知識・技術を修得できる。また、視能訓練士業務を行うのに必ず修得しておかなければならない基本的事項について実習を行い、今後の自己の課題を検討することができる。							
評価方法と基準	実習生授業参加態度、実習生出欠状況、症例記録:100%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1～ 158	6/14～ 8/9	実習	臨地実習 I 期 期間 6/14～8/9	実習記録
準備学習 時間外学習		自己学習、実技練習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】 □ 視能検査法ハンドブック、現代の眼科学改訂第13版、眼科疾患ビジュアルブック、視能学第2版、視能矯正学第3版				

科目名 (英)	臨地実習Ⅱ (Clinical Practice Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	高瀬志保子
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義・演習・実 習	総時間 (単位)	315 (7)	開講区分	通年 曜日・時限
教員の略歴	眼科医院勤務を経て仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 視能訓練士						
授業の学習内 容	<p>今まで学んだ知識・技術を活かし臨地実習指導者の指示のもと、視能訓練士業務を経験し実践できる。</p> <p>①眼疾患と検査の関連を理解できる。 ②眼疾患に応じた検査内容が理解できる。 ③治療方針が理解できる。 ④視能矯正学に基づいた知識をもって臨地での検査ができる。 ⑤ロービジョンの実際について学ぶことができる。</p>						
到達目標	医療現場において、医療倫理に基づく基本的なマナーを実践し、視能訓練士として必要な知識・技術を修得できる。また、視能訓練士業務を行うのに必ず修得しておかなければならない基本的事項について見学及び実習を行い、今後の自己の課題を検討できる。						
評価方法と基準	実習施設での総合評価(実習指導担当者様による評価、出欠状況、実習記録):100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
9～ 146	8/23～ 10/20	実習	臨床実習Ⅱ 期間 8/23～10/20	実習記録
準備学習 時間外学習		学外 臨床実習に向けた自己学習、実技練習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】 □				